

平成26年第3回燕市議会定例会
一般質問日程表

質問日		質問者		質問方式	
				一括質問	一問一答
9月4日(木)	午前	1	渡邊 雄三 議員		○
	午後	2	樋浦 恵美 議員		○
		3	本多 了一 議員	○	
		4	齋藤 信行 議員	○	
		5	土田 昇 議員		○
5日(金)	午前	6	宮路 敏裕 議員	○	
		7	大岩 勉 議員		○
	午後	8	中山 眞二 議員		○
		9	丸山 吉朗 議員		○
		10	山崎 雅男 議員		○
		11	長井由喜雄 議員		○
8日(月)	午前	12	小林 由明 議員		○
		13	夕ナカ・キン 議員		○
	午後	14	大原 伊一 議員	○	
		15	阿部 健二 議員		○
		16	齋藤紀美江 議員		○

平成26年第3回燕市議会定例会「一般質問表」

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
1	渡邊雄三 (一問一答方式)	1. 社会福祉について	(1) 臨時福祉給付金・子育て世帯臨時特例給付金について	①支給対象者への広報の仕方はどのようにされているのか伺います。 ②子育て世帯臨時特例給付金・臨時福祉給付金の支給対象者数は何名か伺います。 ③1月2日以降に転出された方への対応または、亡くなられた方はどのように対応されるのか伺います。 ④直近の支給対象者数に対して申請率はどのようになっているのか伺います。
		2. 環境対策について	(1) 資源ごみの回収について	①直近2カ年の資源ごみの回収状況について品目別に伺います。 ②近年新聞等玄関先で回収する業者が数社見受けられるが市としては承知しているのか伺います。またその影響はあるのか伺います。 ③金属類等を無料で引き取っている業者が市内にもいるが、市としては承知しているのか。又その影響はあるのか伺います。
		3. 社会福祉について	(1) 生活困窮者自立支援法について	①生活困窮者の相談件数はこれまでに何件あったのか伺います。また今関わっている件数は何件あるのか伺います。 ②生活困窮者自立支援法が2015年4月からスタートしますが、現状の取り組み状況と今後の対応について伺います。 ③直近の生活保護世帯数と人数は、又16歳～60歳の人数は何名か伺います。
2	樋浦恵美 (一問一答方式)	1. 子育て支援について	(1) 子育て総合支援センターについて	①旧吉田庁舎の利活用計画として、子育てに関する総合的な機能を備えた拠点施設として、子育て総合支援センターが整備されることになっています。具体的にどのように利用されていくのか。 ②子育て中の保護者の方が、悩みを相談できる窓口が必要であると考えます。 特に、障がいを持っていらっしゃる子どもさんの保護者にとっては、専門の方がいて、いつでも相談に行けるところがあるというのは、心強いことであると思いますが、市の考えを伺います。
			(2) 児童クラブについて	①児童クラブの開設時間は、学校の平常授業期間は放課後から午後6時30分まで、土曜日・長期休業期間は午前8時から午後6時30分までとしています。 保護者の就労状況により、午後6時30分の迎えには間に合わない場合もある為、午後7時まで延長できないか、という声を聞いているが、市の考えを伺います。
		2. 少子化対策について	(1) 不育症治療費助成について	①不育症とは、妊娠しても流産や死産を繰り返して子どもが持てない症状で、検査や適切な治療により8割以上の人が子どもを出産できるとされています。しかし、高額な治療費が必要となり、出産を諦める夫婦も少なくないと言われている。不育症に悩む患者の負担軽減の為、不育症治療費の助成について、市の考えを伺います。 (次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
2	樋浦 恵美 (一問一答方式)	3. 防災行政無線について	(1) 防災行政無線の充実について	<p>①燕市では、防災行政無線からの放送が聞き取れなかった場合など、指定の番号に電話すると、放送内容が確認できるようになっている。これは、HP からの情報で知ることができるが、インターネットを使用しない人には、この情報を知ることは出来ない。今後、対策を講じていかれるのか、考えを伺います。</p> <p>②フリーダイヤルで放送を聞き直すことができるサービスや、電話番号が記入してあるシールを各家庭に配布している自治体もあるが、燕市にも導入できないか、考えを伺います。</p>
3	本多 了一	1. 市長の政治姿勢について	(1) 集団的自衛権の行使容認について	<p>①新潟日報の実施したアンケートでは、①憲法解釈変更による集団的自衛権の行使容認②閣議決定の手法の 2 点で首長に賛否を問うているものだが、鈴木市長はいずれも反対と答えておられるがその真意について伺う。</p> <p>②共産党燕市委員会の実施した市民アンケートでは、この問題について「反対」「どちらかと言えば反対」が 60.5% を占めている。日本が戦争する国へ歩み出せば必ず自治体が協力させられる。市民の声として次のようなものがある。「唯一被爆国が戦争を拒否し続けなければ過去の犠牲者に、どう顔をむけるのか」「平和憲法がくずれその犠牲になるのは若者」「戦争しない国がどんどん戦争をしていた頃にもどっているよう」、市民の中にも解釈改憲と集団的自衛権の行使に危機感をもち反対する気運が高まっていると感ずるが、市長もこれらの声を受けとめて又は呼応して加茂市の市長のように明確に解釈改憲に反対の意志を表示されたらどうか伺う。</p>
		2. 消費税増税のその後の経済動向について	(1) 内閣府が発表した 2014 年 4 月から 6 月期の国内総生産 (GDP) に関連して	<p>①内閣府の発表した国内総生産 (GDP) では特に個人消費は 1994 年以来 20 年間で最大の悪化を示している。4 月の消費税増税が国民のくらしも日本経済もダメにしているのではないかとかがわれるが当局の認識はどうか。</p> <p>②日本共産党市議団は市民要求アンケートにもとづき消費税 10% 引き上げについて、政府与党にむけて「反対」の声を上げるよう市長に求めているが、どう受けとめられるか。さらに消費税 10% になれば市民のくらし、営業が根底からくずされてしまうおそれがあるので市長から市民のくらしを守る防波堤の役割りを果たす姿勢を明確にしてもらいたいとどうか。</p> <p>③アベノミクスが盛んに宣伝されているが燕の業界には波及していないのではないかと見るが、当局の認識を伺う。</p>
		3. 中小企業への法人課税のうごきについて	(1) 外形標準課税強化は燕市の企業に大きな打撃を与えるのではないかと	<p>①外形標準課税は現在資本金 1 億円超の企業にしか適用されていない。燕市では現在それに該当する企業はほとんどないと思うが、この対象が拡大されるとなれば燕の多くの中小企業に大きな負担がかかる恐れがあると考えますが業界団体とも協議して反対の声を上げるべきと考えるが、どうか。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
4	齋藤 信行	1. 人口問題について	(1) 「今後も市内に住み続けたいですか」、「市外に引っ越したい」について	①これはふれあいトーク 2014において、市民から質問のあったものであるが、それは「市外に引っ越したい」と回答した人が 16.2%いる。人数にすると約 10,000 人になるが、引っ越したいという人は、どのような年齢層なのかという質問であった。その中で、企画財政部長は細かい資料を持ってきていないので、分析の結果はよく分からない。また市長は、この指摘は分析してみる価値がある。引っ越したいという理由が、交通の便の悪さや、余暇の娯楽が少ないといったものなのか。このあたりの理由は、若い人のデータを反映していると思われると回答していました。そこで私は、市内に住みたい人、引っ越したい人がどの位いるのか、年齢層まで分析しているのか、また今後どういった対策を考えているのか伺います。
			(2) 移住対策について	①遠野市では、移住対策を目的として地域の活性化と人口減少の抑制とし、移住相談のワンストップ窓口を設立し、空き家などをリフォーム助成、移住者の支援として移住者交流会など開催したりしてサポートしているが、そこで市の対応、対策、現状について伺います。
		2. 避難勧告と防災計画について	(1) 7月9日の集中豪雨について	①7月9日の大雨のときは、土砂崩れの危険性があるということで、市は避難指示ということで、避難所に避難をされた市民の方がいらっしゃいましたが、広島土砂災害は夜中の雨であり、その時間によって対応もかなり違うと思われるが、市は今回の対応を踏まえ今後どのように対応していくのか伺います。 ②今回の結果を踏まえて、市民にどのようにお知らせするのか伺います。
			(2) 避難場所について	①市民の中には、災害によって避難する場所がどこか分からないといわれる方も多くいますが、防災計画の中で今後どのように対応していくのか伺います。
5	土田 昇 (一問一答方式)	1. 福井地方裁判所の判決内容について	(1) 昨年との違いについて	①酒呑童子行列は、昨年とかなり違うと聞いているが、今年はどういう形になるのか、その中で燕のPRについて伺います。 ②酒呑童子のゆるキャラの作製について伺います。 ③福知山市との交流を今後どのようにもっていくのか伺います。
			(1) 柏崎、刈羽原発の今後の課題について	①今年の5月21日、福井地裁は、関西電力大飯原発3、4号機の運転差し止めを命じる歴史的判決を下しました。 第一に憲法で保障された「人格権」を最優先して、国民の命と暮らしを守ること以上に大切なことはないという当たり前の大原則にたって、原発再稼働ストップの判決を下したのであります。

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
5	土田 昇 (一問一答方式)			<p>第二点として、原発は他の技術とは異なる「本質的な危険性」を繰り返し強調して、原子力発電技術の危険性の本質及び、そのもたらす被害の大きさは、「福島原発事故を通じて十分に明らかになったといえる」と指摘して、他の技術の場合には仮に大事故が起こっても時とともに収束に向かいます。ところが原発は違う。ひとたび大事故が起こったら時とともに事故の被害は拡大していく、原発は他の技術にはない「異質の危険」を持っていると厳しく指摘しています。</p> <p>第三点として、原発の「安全神話」に対しても厳しく断罪をしています。</p> <p>この地震大国の日本において、基準地震動を超える地震が大飯原発に到来しないというのは、根拠のない楽観的見通しにしかすぎない。基準地震動に満たない地震によっても、冷却機能喪失による重大な事故が発生するし、このような施設のあり方は原子力発電所が有する、本質的な危険性についてあまりにも楽観的な「安全神話」といわざるを得ないとしています。</p> <p>第四点として、国民の安全よりもコストを優先する考え方にも厳しい判決が示されました。関西電力は、原発の再稼働が電力供給の安定性、コストの低減になると主張するが、裁判所として極めて多数の人の生存そのものに関わる権利と電気代の高い安いの問題等並べて論じるようなことはしない、さらに地球温暖化対策を理由にした原発推進論に対して次のように批判しています。</p> <p>関西電力は、原子力発電所の稼働が二酸化炭素排出削減になると主張しているが、原子力発電所でひとたび深刻事故が起こった場合の環境汚染はすさまじいものであり、福島原発事故は我が国始まって以来最大の公害、環境汚染であることに照らすと、環境問題を原子力発電の運転継続の理由とはならないと提言しています。</p> <p>そこで、市長に伺いますが、この4つの判断は、大飯原発だけでなく全国すべての原発にあてはまるものと考えますが、市長の見解について伺う。</p> <p>② 柏崎、刈羽原発の避難計画について伺います。先の定例議会の中での答弁について伺いますが、広域避難の行動指針が県で素案がつくられたと答弁していますが、その中で7項目にまとめられたと説明されていますが、その内容について市民の方々は理解されていない部分もあると思うが、その点についての現状の認識について伺う。</p> <p>次に非難にあたっては、各自治体ごとに避難することではないと言っていますが、だれが最終的に指示をだしてだれが責任を負うか、さらに県の行動指針あるいは避難計画といったものが決定された場合、市町村の避難計画に盛り込むとしているが、現在市の対応はどのようなになっているか伺う。 (次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
5	土田昇 (一問一答方式)	2. 県立吉田病院の機能と充実について	(1) 医療・介護総合法のもとで県立吉田病院に求められる役割について	<p>③ 県の避難計画では、ヨウ素剤の配布については迅速な服用のため、各家庭、学校、事業所への事前配布も必要としていますが、現状はどうなっているのか、今後の対応はどのように考えているのか伺う。</p> <p>次に、柏崎、刈羽原発の30キロ圏内の介護施設や病院では7割の施設の避難先が確保されないとしているが、市の介護施設との話し合いは進んでいるのか伺う。</p> <p>① 県立吉田病院の問題については、燕市だけの問題ではなく、周辺自治体にとってもなくてはならない病院であります。</p> <p>その理由として、住所別の退院患者の構成比率は、燕市51%、新潟市28.7%、弥彦村8.8%、長岡市5.8%となっています。</p> <p>県立吉田病院が今後どうなっていくかは燕地域を中心とした広範な地域の切実な問題と受け止めなければならないと思います。</p> <p>そのような中で厚労省は、全国的に病床削減の方向で進んでいますが、医療・介護総合法ということで県に「地域医療構想」策定を義務付けてきました。</p> <p>その内容については、各病院や有床診療所はそれぞれが持つ病床の機能の現状と将来の方向性について、病棟単位で「高度急性期」「急性期」「回復期」「慢性期」の4つの区分から1つを選択して、この10月までに県に報告することになりますが、県立吉田病院は小児科が多いという特徴を持ちながらも、診療科は内科も外科も利用が多く、人工透析患者や高齢者の受け皿となっていますし、県央基幹病院ができて、燕労災病院がなくなることからも、救急告示病院としての機能はなくせないし、今よりもその点については、充実する方向で努力する必要があると思うがその点の認識について伺う。</p> <p>② 県央基幹病院の後方支援病院として、リハビリなどの機能を強化するように県に強く申し上げていくべきと思うし、在宅療養病院としての機能も強化して、燕地域包括ケアシステムの中核としての役割も求めていく必要があると思うがその認識について伺う。</p> <p>③ 現在産婦人科は閉鎖されているが、再開に向けて市長も努力されていることは十分承知しているが、1日も早く再開できるように医師の確保の状況はどうなっているか伺う。(少子化対策の一環としても努力してほしい)</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
5	土田昇 (一問一答方式)	3. 農業問題について	(1) 農機具の補助制度の実現はどうか	<p>①8月19日付け日報の報道によれば2014年産コシヒカリの仮渡し金額が(60キロ当たり12,000円)過去最低の水準にまで減額された。その理由として、12年、13年の在庫がこれまでにない規模で積み上がった。そして、今年も豊作が見込めるためとしています。さらに経営所得安定対策が10a当たり15,000円から7,500円に半減されて農家の大幅な収入減は避けられない。「農政改革元年」は厳しいスタートとなったと報道されたが、2013年度の収穫量で計算すると、燕市の農家全体のマイナスの金額はどのようになるか、その対策と今後の対応についてどのように考えるか伺う。(米価の下ざさえを国に強く求めるべきと思うがどうか)</p> <p>②近隣の新潟市や加茂市が実施している農機具の補助制度の実現について、農家の方々は強く望んでいるが、市長はどのように考えるか伺う。</p>
6	宮路敏裕	1. 国民健康保険について	(1) 国保加入者のおかれている現状について	<p>①所得が同じでも、国保税は会社員が加入する協会けんぽ保険料の2倍の負担となり、国保世帯からは負担能力の限界を超えているという声が多数聞かれる。この訴えはもっともなことで、正当なことであると思うかどうかの認識について伺う。</p> <p>②経済的理由による受診の遅れで死亡に至った事例が全国で多数にのぼり、そのなかで短期保険証、資格証明書世帯が大半を占めている。燕市でも資格証明書世帯において、受診遅れを招く恐れがあるのではないかと思うが、認識を伺う。</p>
			(2) 負担軽減を求める市民の願いについて	①6月議会では市民の願う国保税の引き下げを求め、財源は財政調整基金を活用すれば可能であると提案したが、基金を活用すれば可能かどうか、改めてその見解を伺う。
		2. 旧保健センター跡地売却について	(1) 政治姿勢について	①旧保健センター跡地売却方針は地元住民に意見、要望を聞くことなしに立案された経緯が明らかである。住民からは「地元軽視でないか」との声もあるように、このような市民不在のやり方は市政運営を根本的に問われる問題ではなかったかと思うが、いかがか認識を伺う。
			(2) 地元住民の願い実現について	①「ラジオ体操はどうなる」などの住民の心配を払拭するために、当面はどのような利用方法でも可能なように、広場、公園として200坪ほど市が買い戻すことが、最善策ではないかと思うが、いかがか伺う。
3. 公民館の改修、整備について	(1) 公民館の設置及び運営に関する基準について	<p>①公民館の設置及び運営に関する文科省告示にてらし、施設や整備に関し、燕市の公民館は基準に合致しているのか、そうでないのか公民館名をあげて具体的に伺う。</p> <p>②藤の曲公民館は2階にあるために、足の不自由な高齢者などは行事への参加をあきらめている人がいる。「告示」では、利用の促進を図るため、必要な施設及び設備を備えるよう努めるものとうたっている。藤の曲公民館にエレベーター設置と階段の改修を行うべきであると思うが、伺う。</p>		

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
7	大岩勉 (一問一答方式)	1. 県央大橋西詰め整備について	(1) 整備基本計画の懇談会メンバーに、若者や子供など若年層メンバーが見受けられない件について	①県・燕市・農協・地元農家組合・自治会・商工団体・市民グループ・観光協会・温泉関係団体などで構成されているが、若者や小中学生など若年層の声を聴くべきでないか伺う。
		(2) 周辺施設の有機的連携の在り方について	①近隣市町村で定着している、同様な整備事業の取り組み状況を伺う。	
		(3) 淡水魚水族館の様な、夢のある施設の建設について	①ふる里の川や自然の再発見、水辺に住む生き物との出会いを紹介する淡水魚水族館、夢のある施設とは思われないか伺う。	
		2. 未来の燕を担う子どもたちを育む教育について	(1) 甲子園球児の努力精神の学びを、教育指導に取り入れる姿勢について	①教育現場では子供たちを愛情を持って厳しく育てる教育指導について伺う。 ②全員が、4番打者やエースピッチャーではないことが自覚できる指導教育について伺う。 ③最後まで諦めない意気軒昂に邁進する、燕の子供たちを育てる教育について伺う。
		3. ふるさと納税制度について	(1) 納税された納入者の現状について	①納税された納入者の現状を伺う。
		(2) 納税者へのお礼の燕市の商品について	①納税者へのお礼の燕市の商品は、どのようなものか伺う。	
		(3) お礼合戦過熱であると、他自治体で困惑し疑問視する声がある件について	①お礼合戦過熱であると、他自治体で困惑し疑問視する声もあるが、戸惑いはないか伺う。	
		4. 燕市議会選挙制度について	(1) 選挙での投票時間の短縮と、開票作業の効率的な作業システムの構築について	①選挙での投票時間の短縮と、開票作業の効率的な作業システムの構築は考えているのか伺う。 ②平成22年10月の燕市議会議員選挙の開票作業終了時間を伺う。

発言の順序	発言する議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
8	中山 眞二 (一問一答方式)	1. 防災について	(1) 防災無線について	①防災行政無線は聞こえているのか。 ②緊急告知ラジオの活用を。
			(2) 防災訓練について	①学校参加について ②訓練のテーマについて ③避難場所について
		2. 地域振興について	(1) 企画政策の行政とそれを実施する自治会住民について	①クリーンデーに見られる名簿提出や募金集めなど仕事の煩雑さや、説明不足について ②防災やお年寄りの見守りに対しての個人情報の保護の壁について ③アパートとそこに住む住民について ④健康づくりなど施設不足と仕組みについて
		3. 都市整備について	(1) 基盤整備について	①県央地区の公共下水化の推進について ②燕市南公民館の耐震補強工事について ③財政調整基金の積立額と住民サービス・基盤整備との適正な基準について
9	丸山 吉朗 (一問一答方式)	1. 県央大橋西詰周辺地域開発計画について	(1) 基本策定懇談会を設置、第一回目を開催されたが内容について	①懇談会の意見、内容等について伺いたい。また、市側としての考え、内容、予定等について伺いたい。 ②全体規模における総予算はどの程度を予定しているのか。予算の規模をある程度考えていかないと良い提案ができないのではないか。
		2. 国上地区道の駅周辺の整備計画について	(1) てまりの湯、道の駅、国上地区における整備計画を再考する考えはないか	①てまりの湯、道の駅、国上地区に対し指定管理者も決定したことであり、燕市唯一自然が残る地域の整備計画を再考する考えはないか。
		3. 大川津放水路、可動堰下流開発について	(1) 先日、可動堰の竣工式が行われ分水地区の願いでもあり期待をしている。下流の埋め立て土地利用計画について	①可動堰下流埋め立て土地利用計画について、国交省等関係機関より燕市に対し計画、提案等の依頼があるか。 ②燕市より利用方法に対し、提案等をする予定はないか。
		4. 少子化対策について	(1) 今まで少子化対策と言われる政策が数多く提案実施されてきているが、効果について検証されたことはあるか	①少子化に対し数々の対策が実施されてきたが、各政策について市として検証されたか。また、今までの対策についてどの様に考えられるか。 ②今後、市としてどの様な対策を考えられているか。また、国県に対し、どの様な対策を望んでいるか。 ③燕市にとっても、少子化は重大問題であると思うが、その一つに婚活等に十分な予算付けをする考えはないか。

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
10	山崎 雅男 (一問一答方式)	1. 農業問題について	(1) 農地中間管理機構について	<p>①日本再興戦略で農業改革の位置づけである農地中間管理機構の制度の骨格について伺う。</p> <p>②農地中間管理機構に対しての現状認識と本市として生かすための方策について伺う。</p> <p>③農地中間機構に関する農業委員会の役割、連携について伺う。</p>
		(2) 生産調整と遊休・荒廃農地について	<p>①本市に於けるコメ生産調整取り組みに対する現状と課題点そして今後の対処法に対して考察しているのか伺う。</p> <p>②農業委員会による農地パトロールの実施状況と実態について伺う。</p>	
		(3) 小規模・家族農業について	<p>①国連・食料農業機関（FAO）が2014年を「国際家族農業年」と定め、家族農業や小規模農家は持続可能な食料生産や食料安全保障貧困の根絶に貢献できるとして、各国に対して小規模家族農業を支援するよう要請している事に対しての認識と捉え方、そして本市の小規模農家の現状と今後の方向性について伺う。</p>	
		2. 公民館が果たす機能のあり方について	(1) 公民館に求められる役割・運営について	<p>①公民館は実際生活に即する教育・学術及び文化に関する各種の事業を行い、以って住民の教育向上・健康増進・生活文化の振興・社会福祉の増進等々に寄与するとされているが、公民館活動をどのように位置付け、運営していくべきと考えているのか伺う。</p> <p>②公民館の館長には、館の行事計画、実施、活性化、設備改善、公民館利用者へのより良い行き届いた市民サービスの向上等、各方面に配慮する必要があると思われる。館長が名誉職的な地位にとどまらないような方策を立てる必要があると思われるが、各地区公民館長の役割と務めを積極的に果たすための人件費を含めた勤務体制を伺う。</p> <p>③行政風土・政治風土が異なる燕・吉田・分水の3地区の有機的な連携、統合によって一体化し相乗的、総合力を発揮しなければならないが、公民館により地域の核としての活動に差異が生じているように感じられる。設置経緯や歴史の違いがあり、容易なことではないが今後どのように取り組んでいく考えなのか伺う。</p> <p>④粟生津公民館体育文化センター・吉田北公民館北体育文化センター併設の経緯と他公民館との違いと現状について伺う。</p> <p>⑤各公民館等の利用状況と今後の公民館が果たす機能の在り方について伺う。</p>
		3. 借地問題について	(1) 借地の利用状況と解消・解決に向けて	<p>①本市で貸与している土地や借地の地代等について、どのように評価して、価格設定をしているのか伺う。</p> <p>②燕・吉田・分水の3地区直近の借地の実態と利用状況そして取得・返還や検証・見直しについての取り組み状況について伺う。</p> <p>③本市の借地面積と地権者数そして年間総額借地料はどの位なのか伺う。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
11	長井由喜雄(一問一答方式)	1. 医療・介護総合法による後退を許さず、安心して暮らせる燕市となるために	(1) 医療分野の影響の認識について	<p>①70歳から74歳までの窓口負担を2割に引き上げたが、医療費負担増によって受診控えが増え、対象となる市民の健康状態の悪化が懸念されるが市はどのように考えるか。</p> <p>②国は2025年モデルで「病院完結型から地域完結型」を目指し、病床は43万床削減して159万床に、介護保険施設は30万床削減し131万床とするとしている。また、国保保険者を都道府県に移管させるとともに、県に「地域医療構想(ビジョン)」の策定を義務付け、医療機関には「高度急性期」「急性期」「回復期」「慢性期」の4区分のどれとするかを10月までに県に報告することを義務付けた。国は「7対1病床」の条件を厳しくし、2015年度までの2年間で「目標」の半分9万床を減らすとし、三条保健所管内の一般病床をもつ10病院も区分報告と看護環境の後退などで地域医療に大きな影響をあたえることになる。患者の追い出しが進み、医療環境の後退を招くこととなるが市の姿勢について伺う。</p>
			(2) 介護分野の影響の認識について	<p>①要支援1,2の「訪問介護」と「通所介護」を保険給付から切り離し、市町村の「地域支援事業」に組み入れるとしている。2015年度以降からということだが、燕市はどう考えているか。財源については「制度内のサービスでのサービス提供であり財源構成も変わらない」と市は考えるのか。また委託可能とされるボランティアやNPOの環境があると考えているか。</p> <p>②現在特養や老健施設で実施されている補足給付を2015年8月から条件に制限を設けるとしている。預貯金が一定額を超える人、世帯分離をしても配偶者が住民税課税されているという人は対象外とする他、今後は障害年金や遺族年金なども「収入」として扱うという。燕市での現在の補足給付対象者の数・割合はどうなっているか。補足給付の市内施設での現状と制度の後退を保険者としてどう考えるのか。また、補足給付から外されると予測される人はどれくらいになるのか。外された人たちへの対応に責任を持ち、老人保健事業でしっかりと対応するべきではないか。</p>
			(3) 燕市の高齢者の状況と第6期の介護保険事業計画をにらんだ介護・医療サービスの課題について	<p>①24年に出された「高齢者保健福祉計画・第5期介護保険事業計画」に25年3月時点の65才以上人口と高齢や世帯数を並べてみた。高齢化率は26.03%となり、高齢者世帯も高齢単身世帯がぐんと増える中で夫婦世帯も合わせた高齢者のみで暮らす世帯の比率が18.8%となった。医療・介護の基盤整備と地域包括ケアシステムの整備について現状と課題を照らしあわせた中で、次の点について伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
11	長井 由喜雄 (一問一答方式)			<p>1, 低所得者でも安心して入所できる施設が必要と考える。特養の入所条件が後退する中で、入所施設ではグループホームや介護付き高齢者住宅などしか行き場がない中で、低所得者にとっては入所可能な金額ではない。これら施設に減免制度もない中では特別養護老人ホームの建設が必定ではないか。</p> <p>2, 人工透析が必要な要介護者が施設に入れない状況、在宅酸素療法患者が入所できない老人保健施設など、医療ニーズの高い人の入所が困難な状況にあるのではないか。これらの人たちの対応をどう考えるか。</p> <p>3, 24 時間対応の定期巡回・随時対応型訪問介護・看護の燕市内での状況はどうか。現在これを実施している自治体は全国でも 1 割にとどまっている。その原因は利用料が限度額ギリギリに設定されていて、超えた分が全額自己負担となること。そして事業者側からしても訪問回数に関係なく定額に報酬が設定されていることだ。ニーズはあるはずで、制度矛盾に対して保険者としての対応が求められる。これらの整備についての考えについて伺う。</p> <p>4, 複合型サービスの整備について伺う。</p> <p>5, 現在の介護を支えるマンパワー不足は深刻ではないか。各介護サービスの種類ごとに適正な介護報酬となっていないことが深刻さを増す要因となっているのではないか。保険者としての認識と対応についてはどう考えているか。</p> <p>6, 市民の 5 人にひとりが高齢者世帯となり、認知症の増加も懸念される中、高齢者が孤立しないためにどう対応していくのか。予防・早期発見・見守り体制の整備や家族への支援が求められるのではないか。認識と対応を伺う。</p> <p>7, 地域包括ケアシステムは退院させられた患者の受け皿として「人口一万人程度の中学校区単位で 24 時間、30 分以内に「医療、介護、介護予防、生活支援、住まい」のサービスを一体で提供できる体制をつくり、在宅生活を支援すると言われているが、政策推進の責任が明確になっていない。保険者として、また市としてこれを主導する立場で進めることが求められるのではないか。そのためにも人的配置を充実させ、この分野での人材育成を進めることが必要ではないか。</p> <p>8, 必要とされる地域の医療機能を議論していくためにも、専門家だけではなく市民も巻き込んで議論を進めることが必要だ。市の医療ビジョンを上から降りてくるのを待って作るのではなく、各分野の専門家だけでなく住民にも議論に参画してもらおう場を作り、主体性を持って進めるべきではないか。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
12	小林由明 (一問一答方式)	1. 若者によるまちづくりの場について	(1) つばめ若者会議事業について	<p>①今後のつばめ若者会議事業をどのように考えているか。</p> <p>②つばめ若者会議メンバーには、会を辞める者、参加しなくなっている者が出ているが、それらの理由は把握されているか。</p> <p>③この1年半の事業を通じて、今までの積み重ねにとらわれることのないこれからのつばめ若者会議の可能性が、メンバーの中には生まれてきていると感じている。市としても、この間作り上げたものにとらわれることなく、メンバーとともにその可能性を模索し、積極的に協力していく姿勢が必要になってくるのではないかと思うがいかがか。</p> <p>④この事業は、社会が抱える課題と若者の力とのマッチングの場を、行政が作ったものとも考えられ、素晴らしい取り組みだと評価している。 今後、つばめ若者会議の活動が、燕市の事業から離れ自主運営に移行し、つばめ若者会議そのものが燕市の事業から離れたとしても、行政による、若者の力を社会的課題にマッチングさせる場の設置の必要性を強く感じるが、市の考えを伺いたい。</p>
		2. 安全安心なまちづくりについて	(1) 公共施設の点検等について	<p>①8月1日の議員協議会において、分水小学校の外壁落下についての報告があったが、施設の日常点検の精度向上のために、どのような取り組みを行っているか伺いたい。</p> <p>②日常の維持管理の中で、修繕の必要な箇所や施設に潜んでいる危険な箇所をだれもが速やかに発見できるよう、効果的な点検の方法を考え、実施していくことが必要ではないか。</p>
			(2) 用水路の安全対策について	<p>①住民の落下等を防ぐため、用水路には柵の設置等なされているが、長年の使用によりその機能を果たさなくなっているものが散見される。 子どもたちが、隙間の空いた柵の中に入り遊んでいるなど、極めて危険な状況も見受けられ、その対策は急を要すると考えるが、市はどのように考えているか。</p> <p>②住民からの情報提供を促すことで、市域内の状況を把握し、同時に、住民との危機意識の共有を図る取り組みを行うべきと考えるがいかがか。</p>
			(3) SNS を用いた情報発信、情報収集について	<p>①豪雨等、市内に危険な状況が発生する場合には、住民からの情報提供を効果的に活用すべきと考えている。 また、市内公共施設は老朽化等により修繕を要するものが増えており、同時に危険な個所も増えていると感じる。住民が気づいた施設等の危険情報を、画像も添えて気軽に投稿できるよう、フェイスブック等で掲示板を作り、住民からの情報提供を行いやすくしてはどうか。</p> <p>②住民からの情報提供を活用し、住民とともに燕市の魅力を発信する取り組みを行うことはできないか。</p>
		3. 教育について	(1) 保護者を巻き込んだ道徳教育について	<p>①道徳教育は、家庭での取り組みも極めて重要であると考えている。 参観日等で道徳教育を取り上げ、家庭での道徳教育の取り組みにつなげられないか。(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
12	小林由明 (一問一答方式)	4. 子育て支援について	(1) 発達障がいに関する取り組みについて	①発達障がいについての知識の普及、啓発をどのように行っているか。 ②さらにその普及、啓発を進めていく必要があると考えるが、市はどのように考えているか。
13	タナカ・キン (一問一答方式)	1. 観光施策について	(1) 夏まつりのポスターについて	①昨年のポスターでは、三条市のみこし団体の写真が一部使用されていたと市民から指摘を受けた。今年のポスターで使用されていた写真は集合写真ではなく個人が特定される仕上がりになっていた。まるでプロレスの顔見せ興行のポスターの様であった。個人情報がかた厳しく言われているが、使用にあたって個々の許可は取られていたのか。 ②デザインが悪すぎて、デザイナーの仕事とは思えないが、本当にデザイナーの仕事なのか、委託から決定にいたる流れについて、お聞きします。 ③選定について、どういった人たちが担当しているのか。 ④日本を代表するグラフィック・デザイナー亀倉雄策氏を燕市出身として誇りに思う気持ちがあれば、ポスター(夏まつり以外も)については、より良質のポスターを作成する必要があると思うのだが。
			(2) さくら公園について	①合併後、多くの議員が反対する中、建設した施設である。現在おとずれても、まず人はいない。この場所は分水地区の観光発信の拠点だったと思うが、目的について確認をしたい。 ②現在の利用状況について ③公園の担当はどうなっているか。
			(3) 花火大会について	①市の中心である庁舎の近くで打ち上げ、庁舎の敷地が観覧会場というのは、良いアイデアだったと評価している。初の試みは成功と言えるものだったのか。 ②ビールを飲んでいる市民の姿も見受けられたが、販売されていたのか。 ③企画を担当した課について
			(4) 金澤翔子さんによる揮毫パフォーマンスについて	①酒呑童子行列の関連イベントとして8月5日に吉田産業会館2F大ホールで金澤翔子さんによる揮毫パフォーマンスを見せていただいた。力強い筆の運びで「共に生きる」と書かれた姿は感動的であった。が、残念なのは観客の少ないことである。どういう宣伝をし、どこに呼びかけたのか。
			(5) 燕市県央大橋西詰め周辺地域整備基本計画について	①住民の意見を幅広く反映させるために、同計画策定懇談会を設置、8月4日に第1回会議が開かれた。地域のさらなる活性化を期待するものである。長岡技術科学大学准教授の樋口氏が会長ということだが、この准教授の専門についてお聞きします。 ②第1回の会議では委員からどのような意見が出されたのか。 ③今後、外部検討委員会を設置するということだが、人選についての考え方をお聞きしたい。

発言の順序	発言する議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具体的な内容 (小項目)
14	大原 伊一	1. 公共施設等総合管理計画の策定について	(1) 現在の進捗状況について	<p>①公共施設等総合管理計画の策定の基本的な姿勢について伺いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の人口減少を踏まえた計画とするのか。 ・各部や課に於いて、あれもこれも残したい。老朽化した施設の更新を目指したいなどと言う従来型の策定を目指していないか。 ・人口減少を踏まえ施設ごとに利用者の減少推移を検討材料に加えているのか。 ・燕・吉田・分水という地区ごとに見るのでなく、全体の区域を一体的に策定するのか。 ・公の施設の統廃合・廃止に施設費（指定管理を含む）の予算上の上限を設けないのか。 <p>②議会に対して中間報告をして、策定について議会の考え方を確認する予定はあるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の公の施設の利用状況、今後の利用者数の10年単位の見込みによる統廃合の在り方。 ・今議会でも取り上げられている利用者負担の在り方を踏まえた上での財政見込みにおける施設管理の方向性。
		2. ふるさと納税の状況について	(1) 最新の状況について	<p>①非常に燕市のふるさと納税が順調に推移し、全国的にも注目を集めていると思うが最新の状況について</p> <p>②返礼品の充実により燕市の特産品化への取り組みとリンクさせては、如何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンテナショップ的役割も含めた運営の在り方を検討しては、如何か。
		3. 厳しさを増す農業の今後の見通しについて	(1) 10年間の推移による本市農業の将来を読み解くとどうなるのか	<p>①合併して10年余りを経過したが、農業の経営環境は、原油の高止まりによる農薬肥料の高騰や消費増税による負担の増、コストが上昇しているのに価格の低迷など悪化する一方であるこの10年間の離農者の推移について、今後の本市農業の将来像について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この10年間に離農した農家数と新規就農した40歳以下の数について ・今年産の米価の暴落による影響について ・この状況を踏まえた本市農業の将来の姿をどの様に考えているのか。
			(2) 消費税における農業差別について	<p>①米だけが内税となっていて現状の米価で8%もの消費税が加算されるが、今回の見直しで外税扱いとすべきでないのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ農業だけが特別に内税なのか？これこそ国による農業差別と言っても過言でないのか。

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
15	阿部 健二 (一問一答方式)	1. 行政視察から学んだこと	(1) 代議制民主主義における市と市民と議会の役割について	<p>①「百姓は米を作りて人を養い～」は、6月議会で引用した福沢諭吉の『学問のすゝめ』からの言葉で…ルソーの『社会契約論』の第8章にもそれに似た所謂行政と“市民の立ち位置”が書かれたクダリがある。</p> <p>「あるゆる政府において、公人は消費するのみで何一つ生産しない。それでは、その消費される物質は、どこからくるのか？構成員の労働からである。公共の必要物をつくりだすものは、個々人の剰余である。そこで市民状態なるものは、人々の労働がその必要以上のものを生みだす、その限りにおいて存続しようということになる」が、それである。</p> <ul style="list-style-type: none"> この話から気付いてほしいのは「人々の労働が剰余を生みだせなくなったら市が存続できなくなる」ということである。いかがか？ <p>②今回の市民厚生常任委員会の行政視察の課題は、長野県佐久市の「保健補導員の活動・効果と、世界最高健康都市構想について」、富山県富山市の「富山エコタウンと富山型介護について」、魚沼市の「基幹病院と地域の連携について」であったが…佐久市での保健補導員についてなどからは「市政への市民参加の意義」が学べたし、富山市での“この指、と～まれ”の視察からは「法律をも変える市民の力」を学べたし、小出病院の布施克也院長からは、「住民参加で創るみらいの魚沼の医療／魚沼市小出病院の役割」についてのお話を伺った。お話の中には“健康の駅”小出病院を“街カフェ機能”を持った「住民の交流拠点」にしたい～というお話もあった。「市民の安心と安全を支える保健医療センター」だという小出病院は、5つの目標を立てておられが、その1つが「私たちは、市民の力を活かし市民参加による市民のための病院を目指します」である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回訪れた3つのマチに共通するのが「市民の力」で…これからの行政は、もはや、自治体単独では限界があるやにも思えてならない。燕市でも早急に「市民の力」による行政を考えねばならないと思うが、いかがか？ 中でも注目すべきは、佐久市の保健補導員の始まりが、昭和20年当時、保健婦が孤軍奮闘している姿を見て、<u>地域の主婦たちが</u>、少しでもお手伝いをしようと、<u>自主的に</u>呼びかけ活動をはじめたのがキッカケだということである(須坂市も同じ)。「地域の主婦たちが自主的に～」をどう思われるか？

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
15	阿部 健二 (一問一答方式)			<p>・小さな子が何やら耳打ちすると、介助なしでは立てなかったお年寄りが自分で立って、その子の手を引いて階段を登る。寝たきりだったおばあちゃんが障がいのある人のために料理をはじめ。NHKのクローズアップ現代での「失われた力を呼び覚ませ！共生型介護」の映像を見て…「富山型デイサービス」の燕市での実現を求めたのが、今から5年前。そのテレビで取り上げられた“この指と～まれ”を説明してくれた西村和美さんは「今でも高齢者や障害者を別々にケアしてきた国や自治体は“共生型”には積極的でない」と仰りながら、理事長の惣万さんを中心に縦割り行政の壁に挑んでいるとかである。「市民目線」を唱えられている市長に、そのお覚悟がお有りか？</p> <p>・(いつも思うことだが)議員が、いくら勉強して、よそのマチのいいところを持ち帰っても、「県内には、それをやっているところがない～とか何とかと担当職員は、やれない理由を探すことに専心する。ために、市の行政に反映されることがない。市は議員の行政視察をムダにしていると思わないか？ それとも、議員の行政視察を「税金のムダづかい」だと思っているのか？</p> <p>(2) 市民が我慢する市政からの脱却について</p> <p>①評論家の宮内邦雄氏が『民主主義の原点』というブログで、「日本は自由主義・民主主義社会であると言われてきたが、最近、日本に民主主義など存在しないと発言する人が出てくるようになった」と書いている。一方、参謀本部という名の会社の齊藤貴義社長(36歳)の言うには、「現代の民主主義の抱える最大の問題は、やはり“代議制(民主主義)の機能不全”に尽きる」である。</p> <p>めまぐるしい娑婆の変化に呼応せず、旧態依然たる“やり方”で、市民に我慢を強いており、これからも強いる(?)のが燕市政に思えてならない。</p> <p>・先般、会派(大河の会)の視察で訪れた群馬県みなかみ町で「みなかみハピネス計画」に取り組んでいるのが“まちづくり交流課・ブランド推進室”なる窓口だったのだが…そのこと(既存の自治体の枠組みを超えた組織?)にこれからの地方自治体の“あり方”が感じられた。</p> <p>「市民の力」を引き出すためには尚のこと、燕市で今必要なのは、それこそ少子高齢化の中で暮らす市民の求めに如何に応えるか～ではないのか？</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
16	齋藤紀美江(一問一答方式)	1. 防災計画について	(1) 避難勧告と避難指示について	①7月9日、土砂災害発生危険が増したということで避難勧告が出されたが、その対応について市民と認識の違いがあったようだが、どうだったのか。 ②本部立ち上げや情報収集はスムーズにおこなえたのか。
			(2) 災害用トイレの指示系統について	①人は生活していくうえで排泄問題は避けてとおれない命にかかわる問題。災害用トイレの指示系統は決められているのか。トイレが使えなくなったときに協定を結んでいても仮設トイレはすぐにはこない。その間どうするのか考えておく必要がある。対策は考えているのか。
			(3) 障がい児・者の避難場所について	①障がい児・者の避難所について、以前も項目にあげたが、時間切れで質問ができなかったが、どのように考えているのか。
		2. 教育について	(1) 文章を書くことについて	①読書活動推進計画が提案されているが読書の重要性は承知をしている。読書と同じように書くことの重要性もいわれている。文章を書く機会が少なくなっているといわれているが、文章を書く取り組みはどのようにされているのか。
			(2) 排泄教育について	①排泄の問題は命に係わることであるのに「恥ずかしいこと・汚いこと」といったイメージをもちやすい。トイレの大切さや排泄と健康の関わりを教えることは大事なことと思うがどうか。
			(3) 学校のトイレ改修について	①排泄への影響は施設面も大きい。いまだ洋式トイレが一か所しかない学校、障がい者対応のトイレがない学校などは早急に改修するべきだと思うがどうか。
		3. こどもの育つ環境について	(1) 多様な体験や遊びのできる環境について	①園庭を様々な体験のできる場としての整備はできないか。 ②自然との関わりが薄れてきているし、冒険的な遊びができるところがないが、そういう体験は重要に思っている。プレリダーのいる冒険遊びの機会をつくれませんか。
			(2) 子どもの森に絵本館をつくれませんか	①以前、こどもの森に絵本館を造れないかと質問したことがある。当時の教育長は真剣に考えてくれたようで、守門村にある森の絵本館を教育委員の方々と見に行ってくれたようだ。夢のある事業だし、子どもたちもそこで本を読んだことをおおきくなくても思い出すのではないかと思うがどうか。
		4. こども病院について	(1) こども病院の誘致を積極的に	①新潟県でもこども病院の必要性を求める声が大きくなっている。条件的には吉田県立病院が一番あっているように思う。積極的に声を上げて欲しいがどうか。
		5. 病児保育室について	(1) 現状と効果について	①登録人数と利用者数はどうか。地域別の登録と利用者数は。一日平均の利用は。